

保健師教育課程における学校保健室実習の学びと今後の課題

金山 時恵

地域看護学専攻科

(2007年11月7日受理)

「学校保健室実習」として授業科目の「地域保健指導論・学校保健」に位置づけ実習を行っている。養護教諭2種免許取得に当たっての実習は、学校の裁量に任されているが、A専攻科では申請による資格取得であっても体験することを重視し理論と実践を統合することができる学生を輩出することをねらい実施している。そこで、今回学校保健室実習として養護教諭の職務などを通しての学生の学びを明らかにした結果、実習年度により抽出されたコード数に大きな差がみられたが、抽出された9つのカテゴリーは、実習目標に関連する【保健教育の理解】【養護教諭の役割】【養護教諭の活動内容】【他者との連携】【安全管理の理解】【対象の理解】【保健室の役割】【学校保健計画】【現場の課題】であった。今後は、学校現場での養護教諭との意思疎通を図り、よりよい実習指導となるためには何が必要かについての共通認識と連携を図りながら検討を重ねていく必要がある。

(キーワード) 養護教諭, 学校保健室実習, 学校保健

はじめに

平成16年4月に開設された地域看護学専攻科は、保健師資格を取得することを目的とした1年間の課程である。さらに、保健師免許を取得したのち教育委員会への申請により「養護教諭2種免許状」を取得することができる。

学校保健婦として配置された時代には養護教諭には看護師の免許があり、看護の教育は問題にならなかったが、教職員としての配置に伴い看護師の免許が必要でなくなった現在養護教諭の看護教育の必要性が改めて問われている。養護教諭2種免許状が申請のみで可能であることは、保健師が地域での活動のみならず、学校現場での看護実践者となることが期待されているからであろう。

養護教諭は、学校において子どもの健康に関する管理面及び指導面における唯一の専門職として配置されている。その職務内容は、年々に拡大・深化し職務を担う養護教諭の力量がより一層求められている状況にある。

さらに、近年の社会状況の様相の変化や家庭環境を取り巻くさまざまな状況は、健全な子どもの育成を困難なものにしている。現在、子どもの抱える問題は複雑かつ多様化しており、その内容はいじめ、いじめによる自殺、不登校、拒食症、過食症、疲労・不定愁訴などさまざまである。また、これらの要因が単独に、あるいはいくつかの要因が複雑に絡み合うことで大きな問題を抱える子どもも少なくない。次から次へと沸き起こる子どもの心

身の健康問題に的確に対応し、子どもが自律できるように問題解決に向けて支援する養護教諭は、学校教育法第28条において「学校には養護教諭を置かなければならない」と規定されているだけにとどまらず、学校に置いていなくてはならない重要な位置づけとなっている。

このように、さまざまな問題を抱える子ども、さらに疾病や障害のある子どもが安心して学校生活を送ることができるように、養護教諭としての役割を理解することは重要なことであると考え。学生が実際に学校教育現場において、学校で生活する子どもと直接的に関わり、養護教諭の職務を間近に観察し、実施体験する実習は大変重要な過程であると考え。

A専攻科では、「学校保健室実習」として授業科目の「地域保健指導論・学校保健」に位置づけ実習を行っている。養護教諭2種免許取得に当たっての実習は、学校の裁量に任されている状況である。本学では、たとえ申請による資格取得であっても体験することを重視し理論と実践を統合することができた学生を輩出することをねらい実施している。さらに実習施設側の理解と協力のもと実施に至っていることはもちろんのことである。そこで、今回学校保健室実習として養護教諭の職務などを通しての学生の学びを明らかにし、今後の課題を検討したので報告する。

I. 研究目的

保健師教育課程における学校保健室実習を経験した学生の学びを分析し、今後の課題を明らかにし学校保健室実習のあり方を検討する。

II 研究方法

1. 対象

平成18年度及び平成19年度のA短期大学地域看護学専攻科1年次生33名

2. 方法

学校保健室実習を体験した学生の総括用紙（A4版）から、学びに関する記述を抽出し、1内容1項目として分類し、意味内容の類似性に基づきサブカテゴリー、カテゴリー化した。

3. 倫理的配慮

調査対象者に、本研究の趣旨と記載内容は研究以外に使用しないこと、研究への協力は自由意思により成績評価とは無関係であること、研究に協力しないことで不利益を被ることはないことを口頭で説明し同意を得た。

III 学校保健室実習の概要について

1. 実習目的

学校における保健管理と保健教育の重要性を認識するとともに、学校教育活動における養護教諭の果たす役割を理解する。

2. 実習目標

- 1) 学校における保健安全管理、保健教育の活動とその内容、それらに関わる養護教諭の役割が理解できる。
- 2) 学校保健の対象である児童・生徒の学校生活を理解し、健康問題の把握と活動計画の立案、実践、評価の方法について理解できる。
- 3) 保健室の管理や運営の実際が理解できる。
- 4) 学校保健と地域保健活動との連携について考えることができる。
- 5) 学校現場で直面している具体的な課題について考えることができる。

3. 実習期間

2006年6月中旬及び2007年6月中旬の4日間

この期間は、実習施設においては春の健康診断の事後指導の時期でありその対応についての学習が可能であること、また6月は「歯の健康週間」という時期で保健指導

が実施しやすいことなどから学校長及び養護教諭との話し合いによりこの時期を選定している。

しかし、学内において「地域保健指導論・学校保健」の講義は後期に開講されるため、実習後に理論と統合するという学習状況となっている。

4. 実習施設

学生が徒歩または自転車及び公共交通機関を利用してアクセスできるB市内の4つの小学校及び4つの中学校。ただし、2006年度においては3つの中学校とした。

教育委員会を通して校長会などの会議を利用して実習の依頼をしている。その後、A専攻科の教員が学校に出向き打ち合わせを行っている。

5. 実習人数

1施設2名とした。ただし、2006年度は2～3名とした。

6. 実習の位置づけ

「地域保健指導論・学校保健」30時間、1単位
開講時期：後期（10月から）

7. 実習の進め方

養護教諭を実習指導者とし、①養護教諭が主に行う保健活動、②学校における事故防止及び安全管理・環境衛生について、③学級活動における保健指導などについて説明を受け見学及び体験する。さらに、校長をはじめ教頭から学校の経営方針の講和、保健指導主事から保健管理運営の講和などから学校全体像を把握できるような実習計画となっている。その実習計画の一例を表1に示す。

実習前には、A専攻科教員が学校に出向き教育実習の一環であること、保健指導が実施できること、学校ですでに計画されている行事に参加、体験したいことを説明している。学生も実習前の打ち合わせのため事前訪問を実施している。その際には、各学校の学校要覧やホームページなどから実習校の概要を把握し、さらに4日間での実習課題を明確にした上で訪問するようにしている。実習施設では、学生の実習課題を把握したうえで、実施可能な内容についてはできるだけ体験できるように実習計画に反映していただくように調整をしている。実習後は、反省点などを次年度に生かすためA専攻科教員が事後訪問をしている。

さらに、学生は小学校・中学校に分かれての実習を行うため情報共有を目的とした実習報告会を実施している。テーマは「学校における養護教諭の役割について」とし、実習校の概要をはじめ見学体験した内容、学校の抱える課題などを実習終了から2週間後に、1校あたり20分間の発表とし意見交換を行っている。

表1 学校保健室実習での実習計画の一例 (小学校・中学校)

施設	時間	実習計画	施設	時間	実習計画
小学校	始業前	職員朝礼 校長講和	中学校	始業前	朝礼 朝読書会
	1時限	児童の健康観察 水質検査、校内巡視 環境整備		1時限	生徒の健康観察 健康状態の把握
	2時限	保健日誌の記録 校内安全点検		2時限	保健だよりの作成
	3時限	児童とのふれあい		3時限	校内掲示物の作成
	4時限	保健教育の準備 資料作成		4時限	養護教諭より特別支援教育に ついての講和
	給食	2年生給食準備 食後の歯磨き指導		給食	歯磨き指導
	5時限	保健委員会との保健教 育の打ち合わせ 清掃		5時限	保健室の運営について講和 学校保健計画の説明
	6時限	保健教育の準備		6時限	環境衛生・安全点検

IV. 考察

学びの自由記述を分析した結果、平成18年度小学校では193コード、中学校では106コード、平成19年度小学校では49コード、中学校では72コードを抽出した。意味の類似性により32のサブカテゴリーに分類し、9つのカテゴリーに類型した。コードを「」、サブカテゴリーを<>、カテゴリーを【】と表記する。抽出された内容は表2~4に示す。実習年度により抽出されたコード数に大きな差がみられたが、抽出された9つのカテゴリーは、実習目標に関連する【保健教育の理解】【養護教諭の役割】【養護教諭の活動内容】【他者との連携】【安全管理の理解】【対象の理解】【保健室の役割】【学校保健計画】【現場の課題】であった。ここでは、実習年度によりカテゴリー数に差があるため、主として多い順に結果を記述することとした。

1) 保健教育の理解

【保健教育の理解】では、5つのサブカテゴリーが構成され、<指導における工夫><指導することの難しさ><参加型の指導が大切><視聴覚教材を用いる><確認・評価が必要>であった。「体験を通して理解を深める工夫を心がける」「興味を持ってもらうように話すこと

の大切と難しさを感じた」「一方的な説明ではなく参加型の指導が大切」から指導の難しさを改めて実感している。さらに「自分の健康に関心を持ち知識を深めていくことができるように図や表を用いる」「模擬演技を行うことは視覚的に効果がある」などさまざまな工夫を行うことの必要性を理解することができていた。「児童の反応から評価することが大切」と実施後の児童の表情や反応からどこまで理解できたかを確認しさらに評価することの大切さを感じていた。

2) 養護教諭の役割

【養護教諭の役割】では、3つのサブカテゴリーが構成され、<養護教諭の役割><養護教諭の姿勢><養護教諭に必要な能力>であった。「学校の保健安全・養護活動の中心となりながら児童の生きる力を伸ばす手助けをしている」「生徒への健康的な生活への指導を行う」から養護教諭は学校保健の主体となる存在であり役割であること理解することができていた。さらに「愛情を持って個性を理解する」「児童と同じ視線で関わる」「生徒と振り返りながら一緒に対策を考える」から養護教諭という前提に一人の人として児童・生徒にどのような視点で関わるかについて考えることができていた。今後養護教諭に必要な能力として「カウンセリング能力、相談技術の向

上が必要」「生徒の心身の状況を判断する力と観察力」が必要と考えることができていた。

3) 養護教諭の職務内容

【養護教諭の職務内容】では、6つのサブカテゴリーが構成され、＜保健教育の実施＞＜健康観察＞＜水質検査＞＜保健便りの作成＞＜養護日誌への記入＞＜衛生管理＞であった。

「将来元気で生活できるように教育されていた」「朝は児童を迎え体調の確認をしていた」「健康観察ノートが個別的にある」「水道水やプールの水質検査が行われていた」「保健日よりで疾病等の予防の大切さを呼びかけていた」「養護日誌にその日の状況を記入していた」などから一部ではあるが具体的な養護教諭の職務内容が理解できていた。

4) 他者との連携

【他者との連携】では、4つのサブカテゴリーが構成され、＜地域・保護者との連携＞＜学校医・栄養士との連携＞＜保健師との連携＞＜校長・担任との連携＞であった。「児童の健康問題の解決には保護者との連携は不可欠である」「家庭や地域との連携が必要」から児童・生徒を取り巻く環境としての地域・家族との連携の大切さを理解することができていた。また「肥満など気になる児童は学校医に相談し指導をしてもらう」から学校医や栄養士との連携について必要性を理解することができた。さらに、「保健師は就学前の様子を養護教諭は就学後の様子の情報交換を行い予防に役立てていた」から学校保健と地域保健の連携について若干ではあるが実感することができていた。「生徒の実態を把握するために担任との関わりは不可欠」から児童・生徒の学校生活を送る上での担任や校長の役割を理解し、健康生活面への支援を行う養護教諭の役割を捉えることができておりその連携が不可欠であることを理解することができていた。また、担任が朝の会で行う健康観察から児童・生徒の健康面での役割を担っていることは養護教諭だけでなく教員全体の役割であることも理解することができており連携についての深まりを感じることができていた。

5) 安全管理の理解

【安全管理の理解】では、2つのサブカテゴリーが構成され、＜安全管理＞＜下校時の安全管理＞であった。「学校生活での児童の安全を守る働きがある」「常時学校が安全な環境であるかを意識する」から養護教諭の役割である安全管理の重要性とその活動について理解することができていた。さらに「下校時は担任とともに見送りを行う」「下校時交通ルールの呼びかけが行われていた」から近年の児童・生徒を取り巻く環境の実態などを通して安

全管理の重要性を認識することができていた。

6) 対象の理解

【対象の理解】では、2つのサブカテゴリーが構成され、＜児童・生徒の現状の理解＞＜健康課題＞であった。「児童・生徒は発達段階にある」「児童・生徒は人間関係に悩みを抱えていた」「思春期という第二性徴を迎えた時期にある」から児童・生徒の生活状況をはじめ心の状況を理解し児童・生徒の発達課題を理解することができていた。さらに「試験勉強や夜更かしで生活習慣が不規則」「就寝時間の遅延・視力低下が明らかであった」から児童・生徒の健康課題の一部を把握することができていた。

7) 保健室の役割

【保健室の役割】では、3つのサブカテゴリーが構成され、＜保健室の役割＞＜保健室の利用状況＞＜保健室の機能＞であった。「保健室は相談の場」「安心できる相談の場」「休息の場」など保健室は健康、衛生、安全管理に関する場としてだけでなく、児童・生徒の精神的支援の場として捉えられていた。さらにその役割がより遂行できるためには「利用しやすい雰囲気や管理運営が必要」と考えることができていた。さらに「保健教育センターとして児童・教員が活用できる資料の提供や情報収集の機能をもつ」から幅広い機能を併せ持つ保健室の機能について理解することができていた。

8) 学校保健計画

【学校保健計画】では、1つのサブカテゴリーであり、「年間の学校保健計画を立案し管理指導を行う」「学年に応じた保健指導計画の立案」など学校保健計画に基づいて児童・生徒の学校生活における健康管理が行われていることを理解することができていた。さらに学校保健活動は学校経営計画が基盤であることも理解することができていた。

9) 現場の課題

【現場の課題】では、1つのサブカテゴリーであり、「なんらかのきっかけで不登校になる生徒がいる」「不登校児に対して学校での活動が途切れてしまわないようにする工夫が必要」など学校を取り巻く課題を一部であるが捉えることができていた。

その他、【特別支援教育】など学校現場のニーズにそった取り組みに関する学びもみられた。疾病や障害のある児童・生徒が増えている状況の中で、学校現場での取り組みについて考える機会となっていた。

表2 平成18年度の小学校における学校保健室実習の学生の学び

総コード数：193 ()はコード数

施設	カテゴリー	サブカテゴリー	コード
小学校	保健教育の理解 (37)	指導における工夫 (15)	体験を通して理解を深める工夫を心がける
		指導することの難しさ (6)	興味を持ってもらうように話すことの大切さと難しさを感じた
		参加型の指導が大切 (5)	一方的な説明ではなく参加型の指導が大切
		視覚的教材を用いる (5)	自分の健康に関心を持ち知識を深めていくことができるように図や表を用いる
		確認・評価が必要 (3)	児童の反応から評価することが大切
		学生の体験 (3)	保健便りの作成、3・6年生に保健教育に実施
	養護教諭の役割 (30)	養護教諭の役割 (18)	学校の保健安全・養護活動の中心となりながら児童の生きる力を伸ばす手助けをしている
		児童への対応の仕方 (7)	よく話を聴いて不安にならないような対応
		養護教諭としての姿勢 (5)	愛情を持って接し個性を理解する
	養護教諭の活動 内容 (28)	保健教育の実施 (9)	将来元気で生活できるように教育されていた
		健康観察 (7)	朝は児童を迎え体調の確認をしていた
		保健便りの作成 (4)	保健便りで予防の大切さを呼びかける
		水質検査 (4)	残留塩素の測定をしていた
		衛生管理	給食当番へのアルコール手指消毒をしていた
		養護日誌への記入 (2)	養護日誌へその日の状況を記入していた
	他者との連携 (23)	地域・保護者との連携 (11)	児童の健康問題の解決には保護者との連携は不可欠である
		学校医・栄養士との連携 (4)	肥満など気になる児童は学校医に相談し指導してもらう
		保健師との連携 (4)	保健師は就学前の様子を養護教諭は就学後の様子の情報交換を行い予防に役立っていた
		校長・教員との連携 (4)	普段から連携を取りながら情報交換を行う
	安全管理の理解 (22)	安全管理の対応 (20)	安全面の管理に占める割合が大きい 児童と教員のために環境整備を行い配慮
		下校時の安全管理 (2)	下校時は担任とともに見送りをを行う
	対象の理解 (21)	児童の現状の理解 (10)	児童は発達段階にある 心の問題を抱えている児童もいる
		児童との関わり方の理解 (4)	児童との関わりから成長・発達について知ることができた

施設	カテゴリー	サブカテゴリー	コード
小学校	対象の理解	児童の清潔の現状 (3)	衛生習慣が身につけていない児童もいる
		児童の生活の様子 (2)	外で遊ぶ児童が多い
		健康課題 (2)	虫歯のある割合はおよそ3割みられる
	保健室の役割 (17)	保健室の役割 (10)	保健室は児童の情報をキャッチする場 保健室は相談の場 保健室は児童が教室を離れて本音が言える場
		保健室の利用状況 (5)	低学年の利用が多い
		保健室の機能 (2)	保健教育センターとして児童・教員が活用できる資料の提供や情報収集の機能を持つ
	学生の体験 (6)	学生の体験 (6)	給食活動への参加、クラブ活動への参加
	学校保健計画 (4)	学校保健計画に基づいた実施 (4)	年間の学校保健計画を立案し管理指導を行う
	現場の課題 (4)	現場の課題 (4)	不登校児に対して学校での活動が途切れてしまわないようにする工夫が必要

V. 考察

1) 学習効果からみた実習目標

今回抽出された9つのカテゴリーから、現在の学校保健室実習の5つの目標についてそれぞれ検討する。

(1) 学校における保健安全管理、保健教育の活動とその内容、それらに関わる養護教諭の役割

学校保健とは、学校における児童・生徒、教職員の健康に関わるすべての教育活動をいい、その目的は健康で幸福な生活を営むために必要な実践能力を養い、児童・生徒の心身の発育・発達を助長し健康の保持増進を図ることである。そして、学校保健は保健教育及び保健管理から構成されていることから、実習において実施体験した【保健教育の理解】についての学びが多かったと思われる。保健教育はさらに保健学習と保健指導に分けられる。保健教育の実施体験の場面もさまざまであり、体育科の保健学習の一環でプール開始に当たっての「救急蘇生法」として保健学習を体験している。また、担任との連携のもと学級活動での「手洗いの仕方」「歯磨き指導」などから保健指導を体験している。それを通して、指導の難しさ、視覚的教材を用いたり、参加型にするなどの重要性を理解することができている。そして、それらの活動を通して養護教諭の職務内容から役割を考えることができている。

(2) 学校保健の対象である児童・生徒の学校生活を理解し、健康問題の把握と活動計画の立案、実践、評価の方法及び学校現場で直面している具体的な課題

発育・発達期にある児童・生徒の心身の健康は、時代の流れに大きく影響されており、その内容も複雑でしかも多様化している状況である。児童・生徒との業間や放課後の遊びなどのふれあいを通して元気で明るい子どもたちを知るとともに、保健室で怪我の処置を受けたり、さまざまな心の悩みを相談する姿を通して学校生活における日々の現状を捉えることができている。現在一般的に捉えられている健康課題と同様に、「視力低下」「う歯」「肥満傾向」があげられる。さらに、学校での課題の一つにある不登校児や保健室登校児の実態を目の当たりにして、メンタル的な支援のあり方や考えを聞くことで更なる養護教諭の役割の重要性を理解することができている。また、そのような課題を生み出す背景には、現代社会の核家族化、保護者の過保護と放任、両親の不仲、子どもと保護者とのコミュニケーション不足なども心身の成長を妨げていることも考えることができる。人間関係作りをいかに作り上げるかを養護教諭が手本となり、いつでもどこでも気になる児童・生徒を把握するため常に声かけを行いコミュニケーションを図っている姿勢から、養護教諭の人間性ととも信頼関係を得ることの重要性を考えることができている。

さらに、健康状況を把握する手段としての養護教諭の

表3 平成18年度の中学校における学校保健室実習の学生の学び

総コード数：106 ()はコード数

施設	カテゴリー	サブカテゴリー	コード
中学校	養護教諭の役割 (22)	養護教諭の役割 (9)	養護教諭は学校保健の主体となる存在である
		養護教諭の姿勢 (7)	生徒と振り返りながら一緒に対策を考える
		養護教諭に必要な能力 (6)	カウンセリング能力、相談技術の向上が必要
	他者との連携 (19)	地域・保護者との連携 (14)	学校の間から地域との連携の大切さを感じた
		担任との連携 (3)	生徒の実態を把握するために担任との関わりは不可欠
		保健師との連携 (2)	学校と保健師が連携を図り情報交換を行うことは有用
	対象の理解 (17)	人間関係作りの大切さ (8)	人間関係を基盤とした信頼関係作りが大切
		健康課題 (6)	試験勉強や夜更かしで生活習慣が不規則
		思春期にある生徒の理解 (3)	思春期が心と体のバランスが不安定でそれぞれが反映している
	保健教育の理解 (16)	指導することの難しさ (6)	生徒に考える力をつけていくことは難しい
		視聴覚教材を用いる (5)	模擬演技を行うことは視覚的に効果がある
		参加型の指導が大切 (4)	参加型の場とすることで指導効果が上がる
	養護教諭の活動 内容 (11)	保健教育 (6)	心の地図や生活地図で生徒自身を客観的に評価できる
		健康観察 (4)	健康観察ノートが個別的にある
		水質検査 (1)	水道水やプールの水質検査が行われていた
	保健安全管理の 理解 (9)	安全管理 (9)	2ヶ月に1回の避難訓練画実施されていた
	保健室の役割(7)	保健室の役割 (7)	保健室は相談の場 思春期に必要な心が和らぐ場であるような管理運営が必要
現場の課題 (5)	現場の課題 (5)	何らかのきっかけで不登校になる生徒がいる	
学校保健計画(2)	学校保健計画 (2)	年度ごとの学校年間計画の策定が必要	

表4 平成19年度の小学校・中学校における学校保健室実習の学生の学び

総コード数：小学校 49、中学校 72 () はコード数

施設	カテゴリー	サブカテゴリー	コード
小学校	養護教諭の役割 (18)	養護教諭の役割 (13)	児童の健康や安全・衛生面を支援する
		養護教諭の姿勢 (5)	養護教諭は児童と同じ視線で関わる
	保健教育の理解 (7)	指導のための工夫が必要 (5)	年齢に応じた伝え方や内容を選択し指導することが重要
		視覚的教材を用いる (3)	年齢に応じた視覚的・聴覚的にも興味を持ちやすくする
	保健室の役割 (5)	保健室の役割 (5)	多様化する健康問題において保健室の役割は大きい
	対象の理解 (5)	関わり方の難しさ (5)	児童への関わり方の難しさを感じた
	保健安全管理の理解 (4)	安全管理 (4)	学校生活での児童の安全を守る働きがある 常時学校が安全な環境であるかを意識する
	学校保健計画 (1)	学校保健計画 (1)	児童の健康に関する事業は養護教諭が中心となるため計画は重要
中学校	養護教諭の役割 (18)	養護教諭の役割 (13)	生徒への健康的な生活への指導を行う
		養護教諭の姿勢 (2)	生徒と一緒に考える視点が大切
		必要な能力 (3)	生徒の心身の状況を判断する力と観察力
	対象の理解 (13)	人間関係作りの困難さ (6)	生徒は人間関係に悩みを抱えていた
		思春期にある生徒の理解 (3)	生徒は第二次性徴を迎えた時期にある
		学生生活の理解 (2)	生徒の学校生活が理解できた
		健康課題 (2)	就寝時間の遅延、視力低下が明らかであった
	学校経営計画 (8)	学校経営計画 (5)	学校保健活動は学校経営計画が基盤である
		学校保健計画 (3)	学年に応じた保健指導計画の立案
	他者との連携 (7)	学校医との連携 (2)	学校医との連携を図っていた
		地域・保護者との連携 (3)	家庭や地域との連携が必要
		小学校・高校との連携 (2)	一連の流れで小学校及び高校との連携を図る
	保健安全管理の理解 (6)	安全管理 (5)	学校内の安全点検や避難訓練の役割がある
		下校時の安全管理 (1)	下校時交通ルールの呼びかけが行われていた
	保健室の役割 (5)	保健室の役割 (5)	生徒の安心できる相談の場 利用しやすい雰囲気が必要
	特別支援教育 (1)	特別支援教育 (1)	特別支援教育では一人ひとりの個性を大切に する

日々の活動内容に「健康観察」がある。実施体験を通して、学級担任との連携のもと観察の視点、判断、的確な対応の必要性を理解することができ、さらに養護教諭に必要な能力として捉えることができている。健康観察のねらいは、児童・生徒が楽しく学校生活を送り学習効果を高めることができ、同時に健康の保持増進に努められるように支援することである²⁾。これらの活動を通して見落としやすい健康問題や潜在する問題を早期に発見する上で養護教諭の役割は重要である。

(3) 保健室の管理や運営の実際

学校における保健室の設置は、学校保健法及び学校教育法施行規則などにより基準が示されている³⁾。保健室の利用は怪我の処置だけにとどまらず、多様化した心身の健康問題の訴えを安心して相談できる場であり、その不安を受け止められる精神的支援の場である。養護教諭は保健室を管理運営する主体者であるという役割を担っているといえる。実習施設にある保健室の規模をはじめ運営状況はさまざまであるが、相談しやすい雰囲気を作り個人情報保護した工夫がなされている。さらに、保健室を拠点に学校保健活動を推進するためには学校医をはじめ全職員との連携が重要であり、またスクールカウンセラーなどの専門家の協力も必要となる。養護教諭自身の健康観や教育観が反映されるような保健室経営が行われ、学校保健計画、学校経営計画の目標達成につながる事が重要となる。

(4) 学校保健と地域保健活動との連携

児童・生徒のライフサイクルを考えると、現在児童・生徒はどの発育・発達段階にあって発達課題を抱えているかを把握することは重要である。実習施設においては地域の保健師との連携が図れていることや、地域・保護者との連携の実際を理解することができている。山田⁴⁾は、学校保健と地域保健との連携には多くの課題が含まれる一方、その果たす役割は大きいと述べている。現在の取り組みの現状は十分なものでないが、今後も諸問題やその解決策についても考えを深めていく必要があると考える。さらに、今日、犯罪の多い社会にあっていつどこで児童・生徒が犠牲になるか不安な状況にある。未然に防止するためには学校現場だけでの対応は不十分であり、地域の協力は不可欠である。学校と地域がそれぞれの役割を担い果たすことが今後より求められていると考える。

2) 今後の課題

現在実施している学校保健室実習は短期間であり過密な計画になっている面もあり、また学校保健の科目開講が後期であることなどから、学生の事前学習にも差が生

じているものとする。そのため、事前学習の明確化を図り実習後早期に学びの統合に結びつくようなまとめを行うことが必要であるとする。今後、学校現場での養護教諭との意思疎通を図り、よりよい実習指導となるためには何が必要かについて共通認識と連携を図りながら検討し改善を重ねていきたい。

さらに、養護教諭養成課程において一般的に実施されている「養護実習」とは内容が十分なものではないと考える。養護実習は、養護教諭の養成教育の中できわめて重要な位置を占めている⁵⁾。養護実習では養護教諭の活動の実践的な体験を行う場だけではなく、教育の本質を理解し学校保健活動及び保健室のあり方及び養護教諭に関する自己の適性を理解する場である⁶⁾。そのため、養護実習は教育職員免許法において、1種免許取得には5単位、2種免許取得には4単位を取得することが決められており、そのうち1単位は事前事後の指導に当てることになっている。保健師免許所有者が教育委員会への申請のみで養護教諭2種免許取得が可能であるのは、保健師が地域での活動のみならず、学校現場との連携を図りながら看護実践者となる事が期待されているものとする。その状況の中で、4日間の期間では十分な期間とはいえない。しかし、現在のカリキュラム上では時間の確保は困難な状況である。さらに、養護教諭1種免許取得のためには養護関連科目と教職関係科目の修得が必至となる。永浜は⁷⁾、看護系の大学で養護教諭に必要とされる専門知識を身につけた質の高い養護教諭を育成するためにはより質の高い効果的な授業が不可欠である。と述べているように開講科目数などの面から多くの課題を抱えている。いずれA専攻科においても養護教諭1種免許取得については課題であると捉え、今後さらに検討を重ねていく必要がある。

文献

- 1) 杉浦守邦：養護概説，学校保健による養護，東山書房，24，2005
- 2) 前掲書1)，150
- 3) 前掲書1)，68
- 4) 山田七重，中村和彦，山縣然太郎：学校保健と地域保健との連携の現状と諸問題，山梨医科大学紀要，16，6-10，1999
- 5) 大谷尚子，植野礼子，田中和子：これからの養護教諭の教育，東山書房，90-98，1990
- 6) 大谷尚子，中桐佐智子，片山良子：養護教諭のあり方に関する研究第3報-養護実習の目的及び目標・評価に関する試案について-，日本養護教諭教育学会誌1(1)，36-45，1998
- 7) 永浜明子，宮城政也：看護大学生の養護教諭に関する認識変化-養護教諭1種免許取得希望者を対象として-，沖縄県立看護大学紀要，6，64-73，2005

**The Learning Condition and Future Tasks of Training in the School Nurse's Office
in the Community Nursing Course**

Tokie Kanayama

Community Health Nursing Course, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

The community nursing course provides "training in the school nurse's office," a practice assigned to the specified subject "community health guidance theories - school health." Each college is permitted to arbitrarily design training for students to obtain the class II nursing teacher qualification. However, our college puts emphasis on real experience to allow students to successfully integrate theories and practices by themselves, even though the license is basically given to all applicants. This study was intended to clarify the condition of students' learning from their experience of nursing teacher's work in the practice. Although a significant difference was found in the number of codes extracted from each college year, nine categories related to the training goal were observed: "understanding of health education," "a nursing teacher's roles," "a nursing teacher's activities," "cooperation with others," "understanding of safety management," "understanding of the target," "roles of a school nurse's office," "school health plans," and "on-site challenges." The results suggest the necessity of continuously discussing and cooperating with nursing teachers on site to come to a consensus on requisites for better guidance in the practice.

Key words: nursing teacher, training in the school nurse's office, school health